Root Research 根の研究

報告

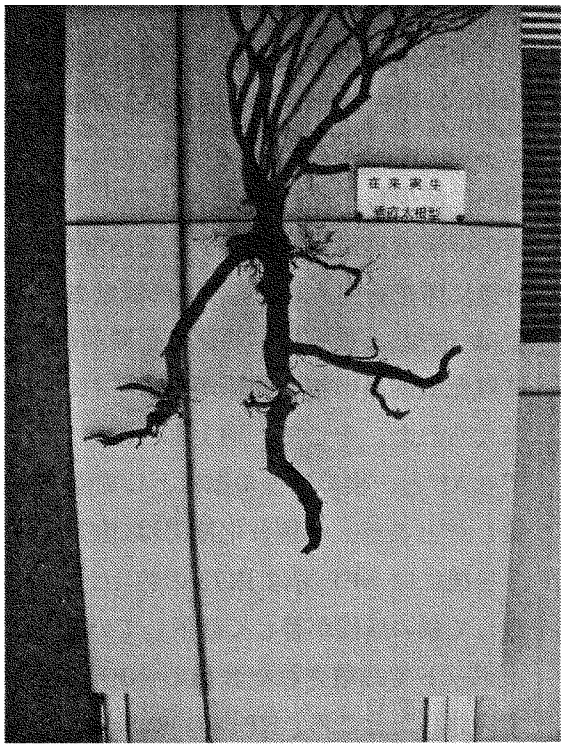
第13回根研究集会に参加して

吉田克志
野菜・茶業試験場　茶栽培部

第13回根研究集会が2000年6月3日に静岡県榛原郡金谷町にある農林水産省 野菜・茶業試験場（金谷）で開催されました．この試験場は東洋一の牧ノ原大茶園の真っ直中にあり，1919年からチャに関する試験研究を行っています．近年，茶の栽培では過剰施肥による茶樹の根系の弱体化や硝酸性窒素による水質汚染が深刻な問題となっており，チャの環境保全型栽培システムの開発ならびにチャ根系の評価・制御法の開発など，「根の研究」に関連した研究成果が求められています．この様な時期に当試験場で根研究集会が開催されることは誠に意義深いものがあり，世話役の松尾喜義氏のお誘いもあって，非会員ではありますが，今回初めて根研究集会に参加いたしました．また，根研究集会の参加報告の機会を与えられましたので，参加して感じたことをご報告させていただきます．

今回は70名を越える多くの参加者を得て，口頭発表16題，ポスター発表10題について活発な議論が行われました．研究内容も栽培の現場に直結した研究からスペースシャトルにおける研究まで多岐にわたっており，根の研究の幅の広さまた奥の深さに知的好奇心を大いに刺激されました．この中で改めて感じたのは，根の機能の評価の難しさと，根の機能と地上部の機能をリンクさせて一つのシステムとして解析しなければならないという点であります．また，分子生物学的手法を用いた研究報告が口頭発表で2題ありましたが，この技術と従来からある根系形態，細胞化学ならびに組織学的な解析手法を効率的に組み合わせることによって，「根から見た植物」という視点で研究が展開されていく可能性を感じました．ただ，この研究会はその研究内容の幅広さ故に，私のような根研究の初心者にとっては普段なじみのない植物や研究手法もあって，発表の内容を理解するのに困難を感じる場合がありました．時間や場所の制約もあるかと思いますが，今後，同じ研究領域の発表が終わった時点で座長が発表内容をとりまとめて手短に紹介し，各テーマごとの総合討論の時間を設定したらどうかと感じました．また，講演だけではなく，根の研究に関する技術講習会を同時に開催できれば，写真や文章だけでは伝わりづらい最新の根の解析技術の普及につながるのではないかと考えました．

この研究会は歴史ある学会とは違って，自由闊達に論議を進めることが可能であること，また堅苦しい雰囲気が感じられないという特徴があるので，根を研究する研究者同士の交流のみならず，学生や若手研究者の発表・練達の場として最適であると思います．これからのますますのご発展を心より願っております．



研究集会では茶の根系も展示されていました．